



2023.3  
VOL.8

# グローバル マネジメント

The Global Management of Nagano

---

## 【資料】

諏訪市博物館寄託諏訪神社上社権祝矢島家文書『物忌令〈写〉』

(文書番号2073) 全文翻刻…………… 二本松 泰子 1

---



# 諏訪市博物館寄託諏訪神社上社権祝矢島家文書『物忌令〈写〉』 (文書番号2073) 全文翻刻

二本松泰子

## はじめに

中世末期（戦国時代）から近世前期における諏訪信仰は、上社をめぐる複雑な時代相を反映して混沌としており、多彩な文化諸相を呈していた。その実態はいまだ体系化されていない。複雑な諸相というのは、たとえば、室町時代の中期以降、大祝宗家である諏訪氏は惣領家と大祝家の二系統に分かれ、大祝職を含む上社の支配権をめぐってたびたび両家対立した。戦国時代になると、惣領家の諏訪頼満が大祝職に就いて両家は統一されたが、彼のあとを継いだ嫡孫の頼重の代に同家は滅亡し、その隙を狙って諏訪氏庶流の高遠頼継と禰宜太夫の矢島満清が大祝職を篡奪するべく反乱を起こす。が、頼重の叔父にあたる諏訪満隣に鎮圧され、それ以後は、この満隣が神長官の守矢家の助

力を得ることに成功したこともあり、彼の家系が大祝職を継承するようになった。具体的には、満隣の子・頼忠からその子である高島藩初代藩主の頼水に大祝職が受け継がれた後、頼水の弟である頼広がそれを継承し、それ以降は彼の家系が同職を世襲するようになってようやく安定した。

このように、中世末期から近世前期に至るまで、諏訪一族の内訌に五官の祝を巻き込んだ大祝職をめぐる争いが頻発し、諏訪上社は不安定な状況にあった。それを所以として、上社所縁の各氏族たちはそれぞれのアイデンティティを確固としたものにするべく、独自に諏訪の信仰伝承を創出し、テキストを介してそれらを積極的に喧伝するようになった。皮肉なことに、それによって再び上社は諏訪の信仰文化の

中心となる。

以上のような上社をめぐる信仰文化の構築の一端として本稿が注目するのは、五官祝諸家におけるそれぞれ独自の蔵書形成の営為である。なかでも近世になって上社神官として台頭してきた権祝の矢島家は、関連するテキスト類を積極的に蒐集して当家独自の信仰伝承を創出しようとしていた顕著な痕跡が確認できる(1)。そこで、本稿では、中近世における諏訪上社の信仰の諸相を体系化する一助として、諏訪市博物館に寄託されている諏訪神社上社権祝矢島家文書約二千点の中から、『物忌令〈写〉』（文書番号2073、巻紙、縦32.0 cm×横32.2 cm×横32.3 cm）を取り上げ、まずはその本文を紹介する。次いで、その他の『物忌令』を称する諸本との対照表を示し、矢島家本の特徴が一瞥できるようにした。当該テキストの叙述内容に関わる分析・考察については別稿で述べる予定である。

### 【注】

- (1) 二本松泰子「諏訪上社の縁起伝承―諏訪市博物館寄託諏訪神社上社権祝矢島家文書『信州諏方大明神縁起』を端緒として―」（『信濃』第3次）第七十二巻十二号、二〇二〇年十二月）、二本松泰子「近世における諏訪上社をめぐる文化伝承―権祝矢島家の家伝を中心に―」（『伝承文学研究』第七十一号、二〇二二年八月）など。

## 一 諏訪市博物館寄託諏訪神社上社権祝矢島家文書『物忌令〈写〉』（文書番号2073）本文

### 【凡例】

- 一 本文は原文通りを原則としたが、一部通行の字体に改めたところもある。
- 一 反復記号「く」「ゝ」はそのまま表記したが、「ゝ」が漢字に用いられている場合は、適宜「々」に改めた箇所もある。
- 一 明らかな誤記・誤写と見られる箇所には原則（ママ）という形で右横に示し、そのうちの一部には同じく右横に（≒本来使用されるべき文字≒カ）という形で表記した。
- 一 虫喰いなどで判別できない文字は□で示した。
- 一 改行については／表記した。

### 【本文】

和光同□<sup>（麻カ）</sup>／結縁乃始／八相成道／終／

一 自將軍家當社物忌量依有御尋伊豆／山別當私實并衆徒等有僉儀□□／大事自神道之内、秘密之所拔山々返／訓仰神祇文響彼物忌量嘉禎三年酌／霜月廿一日製出日限之所引父母恩重經文／近深厚遠淺薄令定處也同曆□□<sup>（正元年）</sup>／<sup>（正元年）</sup>十二月十三日伊豆國北條左近藏人□□□□□／使者一當社被<sup>（ト）</sup>渡<sup>（ワタサリ）</sup>從<sup>（ト）</sup>夫以來嘉禎年中ノ物忌量ノ所<sup>（モ）</sup>被<sup>（モ）</sup>二用<sup>（モ）</sup>一也當國中者無<sup>（モ）</sup>二是非<sup>（モ）</sup>一縱他國也トモ／奉<sup>（モ）</sup>仰<sup>（モ）</sup>二當社一人々此旨可<sup>（レ）</sup>有<sup>（レ）</sup>二展轉者也此書<sup>（ヲ）</sup>／忽<sup>（ル）</sup>緒人々可<sup>（レ）</sup>有<sup>（レ）</sup>

カフムコト 蒙 二神罰一何々可秘々々／信時ノ御子息ノ盛信御舎弟盛重  
 御時□□ノ量之不審一取々成間文保元年丁巳三月十五日宮中之  
 物忌量皆々神前召出年号日付一字誤所有二御改一違 二此  
 物忌量一有二御逸一内御玉殿御所ニテ被二燒捨一卒從レ夫以来此  
 物忌量与同聞書末ノ代迄可レ有ニ御用一口御判形所ニ居給一也矣ノ  
 嘉禎十二月末有ニ改元一或二曆仁元年 □□□□ノ年有ニ改元  
 一成ニ延應一ノ一 是不レ被ニ注載一雖レ制外一相社家自ニ往古一至  
 二今一ノ迄被ニ定置一條々有レ誠ノ一 御造管元服袴着娶智取  
 屋造等不可有ノ一 當ニ当社御頭人如レ是可レ有ニ精進一誅罪科  
 人ニノ事南越ニ鳴澤一北越ニ甕原一可レ被ニ誅一當ニ御頭一ノ人越  
 二其郷可レ被ニ誅也一ノ一 宮造御頭人蔵風呂厩不可レ有ニ子細一  
 但 不ノレ造 劣ノ一 温病者七十五日瘧病赤腹者三日穢誅二  
 死ノ人逢 二合戦一人三日程也一ノ一 月水八日也九日宮神殿可  
 レ參也産屋月水ノ無ニ食離一ノ一 重服食離百日過可レ有同合火  
 事三日穢ノ輕服合火之事當日斗也一ノ一 只今生子鳴聲不レ立死  
 父兄弟 □□□□ノ一 引ニ導人ニ忌七日同野送人忌前立三  
 日跡立ノ七日也同御宮造年無レ茶ニ毘 人ニ打ニ旋弓弦一ノ堀  
 二其内土ニ土葬 翌年取出可ニ茶毘引導一也一ノ一 社内木倒  
 二事外 倒 天下物恠内 二社家ノ物恠也一ノ一 流 鑄馬  
 事 的 皮天下物恠二的皮社家恠三ノ的射手恠也者惡事高  
 丸御對治之時一ノ天下之奉為ニ國土衆生之為三以ニ神通ノ自在方  
 便力一刹那間誅ニ取彼高丸一給時大地ノ震動作ニ雷電一然間至ニ干  
 今代神慮是被ノ思ニ食嘉例一坎覺是以當社祝殿向ニ敵 □□□□

ノ雨降風吹成当家吉事一者歎其被上代向大ノ敵時射二占手矢一覺  
 其吉凶給也一ノ 社内犬鳥倒物食 入 燧燈成裸取二捨之一燧燈ノ  
 無忌一ノ 密迹神御精進事上十日毎日三度垢離精進ノ屋内之人女  
 合音不可有之況身障人七度ノ垢垢離 擔 精進屋可參同神師如是  
 可有ノ精進是則逆縁之御道場故也故御精進屋ノ入人前七日可有精  
 進也參詣之人可如是成一ノ 磯並前宮葛輪之宮三濟山七日可有精  
 進也ノ參詣人可心得也一ノ 當社不掛御贄可禁制物共熊猿羆羊岩  
 名ノ山鳥也熊權現使者故也猿得羅漢果之故也ノ則仏跡者也山鳥  
 青黄赤白黑五色故也亦ノ山神形故也羆羊狼之化現山神護召物  
 ノ高山磐石飛行得神通自在故也岩名及レ一ノ寸一得ニ龍形一越ニ龍  
 門瀧一登百丈瀧得自在故也ノ此外鳥鹿猪魚何可掛是則慈悲之殺生  
 業ノ盡有情之故也當ニ々々社御頭一人何為御狩本ノ仕ニ贄鷹一可被  
 レ係ニ御贄仰御狩申事ノ始ニ從波提国鹿野苑鷹申始說摩訶陀国ノ  
 背ニ此旨一不ニ御贄狩御頭人可背神慮如是ノ服ニ逆縁慈悲之御贄一  
 輩如下彼業盡有ノ情雖放生故宿人天同證佛果文上所得贄ノ忽  
 可ニ成仏得道一我身信施罪即消滅不可共ノ咎得ニ不知ニ此意住ニ愛  
 別離苦之思設逸邪見之ノ心一 恣 貪ニ鳥鹿魚貝五辛酒飯朝夕膳  
 誇滋ノ味 無ニ 慙 愧心一輩信施罪故殺生海廉ニ受重ノ罪可  
 助贄世々生々落 海飛レ是事大切故我ノ身經ニ因果之報一 生ニ替  
 鳥鹿魚肉身ニ受ニ其苦一 招ニ無ノ間之業一 然間逼ニ側此事一 任ニ御誓  
 願一 所レ受贄ノ文ニ報ニ萬民一 設慈悲恐ニ天地一 敬レ神 正レ儀一  
 鑒 二末世ノ忌夫之機一 宣ニ正実々理一 除ニ其衰 患一 破ニ魔障一  
 ノ消除天下災孽拂御聖朝安穩天下泰ノ平国土豊饒以レ被ニ祈禱一

申二法理達一也五官／祝者思二根本變作一東西南北中央之五帝龍／  
 王也一表五智如来歟故御文神字蒙一／向也發心修行菩提涅槃中央  
 也／一 七不思議之事／一 御渡事 一 蛙狩事或稱井御幣 其外池縣也／一 御  
 雨落 一 楠井池ニ木葉不 入事亦藤嶋／一 高野鹿耳或稱 狩野鹿生事／一 御  
 作田作毛生付事 或八榮鈴 以上是也／一 御神寶事／一 金御札 一 三組御  
 寶／一 八榮鈴 一 神象之形／一 真澄鏡 一 御手洗水／一  
 御鞍 以上是也／一 七石之事／一 御座石矢ヶ崎 一 御杵  
 石社内／一 御硯石守屋山 一 墓石回行／一 小袋石磯並 一 小  
 玉石石口五／一 龜浮石ト石千野川 以上是也／一 七木之事／一 桜  
 瀝あわさへにあり之木 一 真弓瀝之木真恩墅／一 峯瀝之木高口 一 檜  
 草瀝之木榮沢／一 橡木瀝之木 一 柳瀝之木／一 松木 瀝神殿ニあり之  
 木 以上七木是也／一 七木之年中行事神功皇后責隨新／羅一  
 有二御還御一筑紫筑前国宇佐宮云ニ／杵尾一處有二御誕生一時八龍  
 王築レ山引三植七／本相一指二揚八本幡以申二八幡山一也有二王子  
 ／御誕生一其御名申二字佐八幡一也亦申二相尾／御門一申二八幡大  
 菩薩一也有二御即位一申二應神／天王一也神功皇后下宮顯給也依レ  
 之七本之／相被レ移レ下下宮故申二七本木一表二此相一申也／一  
 情惟当社明神者遠分二異朝雲一近交南塵一／給申其名健部名方明  
 神去尋二和光之古一居二波提国主一文 月 末 比鹿野苑御狩之  
 時奉レ襲ニ／守屋逆臣一遁ニ其難一廣大慈悲御 得名給亦／委奉  
 レ訪ニ御本地一者西方補處之埵浮ニ影於秋／津洲之波一陰一陽  
 之靈祠也振威於豐葦／原風一亦敷十種之願網於苦海弘一乘之法  
 輪／於濁世一越二恆順衆生之誓願他生一令レ蒙ニ懺／悔滅罪之利

益於萬民一給 訪 二其濫觴一或稱二他／國衆生之靈一亦号二我  
 朝根本之神一南方 幸ニ／波斯國一降二伏惡龍一救二萬民一治二彼  
 國一為二陝／波皇帝一東方 至ニ金色山一殖二善苗一成二仏道一／給  
 其後移二吾朝一給接州滄海邊垂レ跡鎮二三／韓西戎之波浪一表二西  
 宮一名濃州高山 麓 和／光守百王南面之寶祚一誓給申二南宮一也  
 終／ト二勝地於信濃諏方郡一垂迹給彼所移二金剛／碧瑠璃之地一  
 顯二四智四品之臺一表三段三折之地／形一上者上品上中下生中者  
 中品上中下生下／者下品上中下生表二九品一上段者石御座多寶／  
 金塔真言秘密闍伽棚七千餘卷一切經如／法擁護十羅刹女守二護妙  
 典一給中段者玉／御寶殿般若守護十六善神并出正明神垂／迹給代  
 二衆生之八苦一給盡三時夜三特御苦從ニ／御身一出御汗餘御神殿成  
 二軒端雨落一奉レ察／五衰三熱之御苦感涙難押下段者山野鳥／鹿  
 江河水魚悉以救二業 盡有情給執行每月／御神事一處也故和光垂  
 迹御前立三鳥居一也／鳥居者 姿 象二神之信施一人者受二神  
 身／報二間當 姿字風一人消二滅惡業煩惱之罪一故／神々之御前立  
 鳥居一也此 姿字書レ絵作レ質／人現世安穩後生位成仏修二懺悔  
 一人蒙二滅／罪之利益一也矣／一 御柱者普賢文殊觀音弥勒也又秘  
 密壇上号／四橛胎金兩部壇上儀式故也五胎三右獨古有三／具足佛  
 與二衆生不二之鉢木火土金水姿也三古／者天地人形也獨古者惡  
 魔降伏之形也諸人／安穩姿也秘密行上有彈指拍掌之事為二／彈指  
 一除二惡魔一知二生死理一也柏葦滿二一切願一也故／成二彈指拍掌  
 一祈二國家安穩太平一意也拍レ手／事滿レ願云意也亦御玉人會者位  
 ヲ大明神／御判形也切二三刀十二因縁一也折目者六度法門也／夫

大権應迹隨レ機示現真衆隱顯依レ時不定也／然今顯ニ陰陽ニ柱神一  
 内證月明理智同照レニ四／徳源一外用風和吹人法具待二三会暁一  
 助ニ現世一／救ニ未來一給故馳ニ仕頭蹄 捧ニ玉殿御幣一動ニ周  
 郎／簪一翻ニ燕姫袖一竊思ニ除留与楽方法ニ非ニ当来作／仏之結  
 縁一平去者貴賤 誓レ首廻ニ遠近 踵一一天／下四海上浴ニ恩波  
 無非神慮矣／

## 二 『物忌令』 諸本対照表

次に、この諏訪市博物館寄託諏訪神社上社権祝矢鳥家文書『物忌令（写）』（文書番号2073）の特性を明らかにする一助として、従来、その存在がよく知られてきた國學院大學図書館黒川文庫所蔵『諏方上社物忌令信濃國諏訪神社／所傳』（請求番号0918／Ku74／340）と神長官守矢史料館所蔵『諏方上社嘉禎四年物忌令 諏訪宮田村 守矢実顯』（整理番号418／14）の本文との対比を示した対照表を以下に示す。

ちなみに、前者は『神道大系 神社編三十 諏訪』（神道大系編纂会編・発行、一九八二年三月）に翻刻が所収され、後者は『諏訪神社上社神長官守矢家文書目録』（長野県茅野市神長官守矢史料館編、長野県茅野市教育委員会、一九九五年三月）によってその存在が明らかにされてきたものである。両書の本文には便宜上、私意に句読点および並列点を付した。

### 【対照表】

|  |   |  |
|--|---|--|
| 1<br>諏訪市博物館寄託諏訪神社上社権祝矢鳥家<br>文書『物忌令（写）』 | 國學院大學図書館黒川文庫所蔵『諏方上社<br>物忌令』                                       | 神長官守矢史料館所蔵『諏方上社嘉禎四年<br>物忌令 諏訪宮田村 守矢実顯』（整理番<br>号418／14）           |
| 2<br>和光同□結縁乃始八相成道 終                    | 在判 定 諏方上社物忌令之事  | 定<br>諏方上社物忌令之事   |
| 3                                      | 一 父母ノ死タラン忌ハ百日ナリ。服ハ向<br>月ノ其日マテ、但閏月ハクワウヘシ。                          | 一 父母死たらん忌ハ五十□□向月の其日<br>まで□□なし月はく□ふ□し。                            |
| 4                                      | 一 他所ニアラム父母ノ死タラン忌ハ、服<br>ノ中ニ聞タラ、残忌服ヲ可忌。過テ服中ニ<br>聞タランハ、忌三十日。服ハ其残ヲ可忌。 | 一 他□□あらん父は、死たらん忌は服<br>のうちにきゝたらんハのこり忌む服をいむ<br>へし。いみ過て服の中に聞たらんはいみ三 |

| 9   | 8  | 7   | 6                                | 5   |   |
|---|--|---|----------------------------------|---|---|
|   |  |   |                                  |   |   |
| <p>也。<br/>一 父方ノ祖父・祖母ノ死タラン忌ハ三十日。服ハ五ヶ月カヽリノツイタチマテ可忌也。</p>              | <p>一 産屋ノ中ニテ死タラン子ノ忌ハ、母ハ其ウフヤノ□□。但ウフヤ廿五日ヨリ後ナラハ、母ハ十日可忌也。カノウフ子ノ父ト姪甥ハ十日、兄姉ハ七日可忌。卅五日過テ死タランハ、成人ノ子ノ如可忌也。</p>  | <p>只生テ後死タルト同可忌。<br/>一 産屋ハ卅五日可忌。但荒子ハ懐妊テメリ後三ヶ月以前ハ、父十日・母二十日。四ヶ月ヨリ後ハ父ハ卅五日、母ハ四十日。九ヶ月ヨリ後死テ生レタリトモ、荒子トハ云ス。</p>                  | <p>一 子ノ死タラン忌ハ廿日。但嫡子ハ三十日可忌也。</p>  | <p>一 輕服ハ忌服ノ中ニ聞タランハ、殘忌服ヲ可忌。忌服過テ聞タランハ忌服共不可忌。</p>  | <p>忌服過テ聞タランハ忌斗卅日可忌。</p>                           |
| <p>一 父方ノ祖父祖母ノ死たらん忌ハ三十日服ハ五ヶ月<small>(月カ)</small>かゝりの月のつゐたちまていむへし。</p> | <p>一 産屋の中にて死たらん子の忌ハ母ハそのうふ屋のすゑ、但うふや廿五日より後ならハ母ハ十日いむへきなり。かのうふ子の父と姪甥<small>メイブイ</small>ハ十日、兄姉<small>アニアネ</small>ハ七日いむへし。三十五日すきて死たらんはせいしんの子のこといむへし。</p> | <p>一 産屋ハ卅五日いむへし、但荒子ハ懐妊<small>ニシ</small>してより後三ヶ月以前ハ父ハ十日、母ハ三十日、四ヶ月よりのちハ父ハ三十日、母ハ四十日。九ヶ月より後ハ死生たりとも荒子トハ云す。たゝ生て後死たると同忌□し。</p> | <p>一 子の死たらんは廿日、たゝ嫡子ハ三十日いむへし。</p> | <p>一 <small>(輕カ)</small>□□いみふくの中<small>(忌カ)</small>聞たらんハ残いみ服□いむへし。いみふく過て聞たらんハいみふく共いむへからず。</p> | <p>十日、服ハその残りをいむへし。いみふくすきて聞たらんハ忌ハかりを三十日いむへきなり。</p> |

| 19   | 18   | 17   | 16   | 15  | 14  | 13   | 12  | 11  | 10   |
|--|--|--|--|---|---|--|---|---|--|
| 一 孫姪甥・従父兄弟ノ死タラムハ、三日可忌也。                        | 一 妻男ノ死タランハタノケカレハ、子ノアラン中ハ二七日、子ノナカラム中ハ一七可忌也。 | 一 他生ノ弟妹ノ忌ハ、只十日可忌也。                         | 一 一生ノ弟妹ノ忌ハ廿日可忌也。                           | 一 他生ノ兄姉ノ忌ハ十日、服ハ廿日、合卅日可忌也。   | 一 イツシヤウノ兄姉ノ忌ハ廿日、服ハ四十日、合六十日可忌也。                  | 一 母方伯父・伯母ノ忌ハ十日、服廿日、合卅日可忌也。                                     | 一 父方ノ他生ノ伯父・伯母ノ忌ハ十日、服廿日、卅日可忌。  | 一 父方伯父・伯母ノ忌ハ廿日、服四十日、合六十日可忌也。                    | 一 母方ノ祖父・祖母ノ忌ハ廿日、服ハ四十日、合六十日可忌也。                   |
| 一 孫姪甥 <small>メイオイイト</small> 従父兄弟ノ死たらん忌ハ三日いむへし。 | 一 妻男の死たらんはたのけかれハ子のあらん中は二七日子のかならん中ハ一七日いむへし。 | 一 一生の弟 <small>オトノイモウト</small> 妹の忌むハ十日いむへし。 | 一 他生の弟 <small>オトノイモウト</small> 妹の忌むハ十日いむへし。 | 一 他生 <small>一はゝかたのたしやうのおちおはけれハ忌十日服十日はらつゝきの事なり。</small> の兄姉の忌ハ十日服ハ廿日合て三十日いむへし。 | 一 一生 <small>アニアネ</small> の兄姉の忌ハ〇服ハ四十日、合六十日いむへし。 | 一 母方 <small>ヲチ</small> の舅 <small>ハ</small> おはのいみハ十日服廿日合卅日いむへし。 | 一 父方 <small>ヲチ</small> の他生 <small>ハ</small> の伯父伯母の忌ハ十日、服ハ廿日、合三十日いむへし。 | 一 父方 <small>ヲチ</small> 伯父伯母の忌ハ廿日、服四十日、合六十日いむへし。 | 一 母方 <small>ハ</small> の祖父祖母の忌ハ廿日、服ハ四十日、合六十日いむへし。 |

| 20   | 21   | 22                                     | 23                          | 24                           | 25               | 26  |
|--|--|--|-----------------------------|------------------------------|------------------|---|
| <p>一 葬家ノ中ニテ持教養シタラン人ノ忌ハ五十日、百日ノ程宮・神殿ヘハ不可參。</p> | <p>一 持教養シタラン人ノモトヘハ、三十五日過テ入乱タラン人ハ、カノ忌ノ五十日過テ宮ト神殿ヘハ可參。卅五日ヨリ中ニ入ミタレタラン人ハ、百日過テ宮ト神殿ヘハ可參也。</p> |  |                             |                              | <p>大祝信濃權守 在判</p> | <p>一 自將軍家當社物忌量依有御尋、伊豆山別當私實并衆徒等有僉儀□□。大事自神道之内秘密之所拔山々返訓、仰神祇文響、彼物忌量嘉禎三年<sup>丁</sup>西霜月廿一日製出日限之所引、父母恩重經文<sup>ノ</sup>近深厚<sup>ク</sup>遠<sup>キ</sup>淺薄<sup>ク</sup>令定處也。同曆<sup>仁元年カ</sup>□□<sup>戊</sup>十二月十三日、伊豆國北條左近藏人<sup>大正信ヲカ</sup>□□<sup>ト</sup>使者一當社被<sup>ワタサ</sup>渡<sup>リ</sup>。從<sup>モテ</sup>レ<sup>キ</sup>夫以來嘉禎年中ノ物忌量所<sup>レ</sup>被<sup>二</sup>用<sup>一</sup>也。當國中者無<sup>二</sup>是非<sup>一</sup>、縦他國也<sup>ト</sup>モ奉<sup>レ</sup>仰<sup>二</sup></p> |
| <p>一 葬家の中にて持教養たらん人の忌ハ五十日百日の程ハ宮神殿へ參へからず。</p>  | <p>一 持教養しゝたらん人のもとへハ三十五日すきて入みたれらん人ハかの忌の五十日すきて宮と神殿へ參へし。三十五日より中に入れたらん人ハ百日過て社參申すへし。</p>    | <p>右此物忌令に任て各々禁制あるへし。是に注載せらんハ制のほか也。</p> | <p>一人をてかけたらんものハ三日のけかれ也。</p> | <p>嘉禎四年<sup>戊</sup>十二月一日</p> | <p>大祝信濃權守信時</p>  | <p>一 將軍家ヨリ當社ノ物忌令依御尋、伊豆ノ別當弘実並ニ衆徒等センキシテ諏方之大事神道ノ内ヨリヒミツノトコロヲヌキ出テクニ返シ、神祇モムノヒキニヲオセテ、カノ物忌令ヲ嘉禎三年<sup>丁</sup>西十一月廿一日作出テ、日限之処ヲハ父母恩中經之説ヲ引テ、近ヲハフカクコク、遠ヲハアサクウスク所令定也。同曆<sup>仁元年カ</sup>□□<sup>戊</sup>十二月十三日ニ、伊豆國北條左近藏人大夫正信ヲ御使者トシテ</p>  |
| <p>一 持教養たらん人の忌ハ五十日百日の程ハ宮神殿へ參へからず。</p>        | <p>一 持教養しゝたらん人のもとへハ三十五日すきて入みたれらん人ハかの忌の五十日すきて宮と神殿へ參へし。三十五日より中に入れたらん人ハ百日過て社參申すへし。</p>    | <p>右此物忌令に任て各々禁制あるへし。是に注載せらんハ制のほか也。</p> | <p>一人をてかけたらんものハ三日のけかれ也。</p> | <p>嘉禎四年<sup>戊</sup>十二月一日</p> | <p>大祝信濃權守信時</p>  | <p>一 持<sup>持</sup>將軍家より当社の物忌令依御尋、伊豆山の別當弘実並衆徒等せんきして、諏方の大事神道之内より秘密之處を抽てくつに返し、しんきもんのひきに應せて彼物忌令を嘉禎三年<sup>丁</sup>西十一月廿一日作出て日限處をハ父母恩受經の説を引て、近きをハ深くこく、遠をハ浅く薄令定所也。同曆<sup>仁元年カ</sup>□□<sup>戊</sup>十二月十三日ニ伊豆國北條左近藏人大夫正信を夫として当社へ被渡其よりして嘉禎</p>  |



| 33                                 | 32  | 31   | 30                                 |  |
|------------------------------------|---|--|------------------------------------|--|
| <p>一 宮造御頭人藏風呂厩不可有子細</p>            |   |  |                                    | <p>一可レ被<sup>ラレ</sup>二誅<sup>ラレ</sup>一。當<sup>ラレ</sup>二御頭一人越<sup>ラレ</sup>二其郷可レ被<sup>ラレ</sup>二誅<sup>ラレ</sup>也。</p> |
| <p>一 宮造御頭人モ藏ト風呂・厩ハ無子細ト</p>         |   |  |                                    | <p>北ハコシキ原ヲコシテ可被誅也。御頭ニアタリタラン人モ、其江内ヲコシテ可被誅也。</p>   |
| <p>一 宮造御頭人も藏を作、風呂を作、厩を堅可有禁制者也。</p> | <p>一 凡人ト而於神人刃傷せんには其咎のふかき事大海よりも深く、永可得無間科也。其謂何となれば 良<sup>イハレ</sup>、神人ハ明神之御実躰あらハす姿也、依刃傷之輩をは卷簀<sup>ニシヤウ</sup>に可海入也。其從類眷屬までも付<sup>ツケ</sup>レ簡、可追其所<sup>ヲウ</sup>一也。されハ神託に曰我宮人を一杖打事あらハ熱鐵を百日吞苦たりトあり。御誓、増て凡人此科をおかす事甚大成戒也。</p> | <p>一 神人の身として人を誅<sup>チウ</sup>し、下人盗人を誅事、是不可之儀也。但當時、難遁事あるニ依て其科を不顧惡念之依甚敷忌其身誅人事、被<sup>カウムル</sup>疵ト云共、命不死者七日之間出仕社頭參事可停止也。若又於其命留者七十五日宮神殿へ參へからず。盗人ハ三日のけかれ也。盜賊においてハ害一人を萬民を助くると申契あり。依此道理也。</p> | <p>一 社内にて自然人をあやまつ事あらハ地五尺堀て可捨也。</p> | <p>をこし、北ハこしきハラを越し可被誅るへし。御頭に當たらん人も其郷内の堺をこして罪科人を可被誅也。</p>  |

|                                   |   |  |                                       |  |   |  |                                    |
|-----------------------------------|---|--|---------------------------------------|--|---|--|------------------------------------|
| <p>40</p> <p>一 流鏑馬事、的皮天下物恠、二的</p> | <p>39</p> <p>一 社内木倒、事、外倒、天下物恠也。</p>             | <p>38</p> <p>一 引、導人、忌七日、同野送人、忌前三日、跡立七日也。同御宮造、年無茶二毘、人、打二旋弓弦。堀二其内土、土葬、翌年取出可二茶毘引導一也。</p>                            | <p>37</p> <p>一 只今生子鳴聲不レ立死、父兄弟</p>     | <p>36</p> <p>一 重服食離、百日過可有。同合火事三日穢。輕服合火之事當日斗也。</p>        | <p>35</p> <p>一 月水八日也。九日宮神殿可レ參也。産屋月水無二食離一。</p> | <p>34</p> <p>一 温病者七十五日、瘡病赤腹者三日穢。誅二死人、逢二合戦一人三日程也。</p>         | <p>一。但不レ造劣。</p>                    |
| <p>一 流鏑馬之事、一の的ノハツレタルハ、</p>        | <p>一 社内之木ノマロヒタル事、外ヘマロヘハ天下之御為、内ヘマロヒタルハ社家ノ為也。</p> | <p>一 人ヲ引導シタル人之忌七日、同野送之人ノ忌前立ツハ三日、跡ニ立タルハ七日之穢ナリ。同御宮造ニハ人ヲ引導スル事ハナシ。弓ノツルウチマハシテ、其内ノ土ヲホリテ土葬シテ、次ノ年取出テ引導スル也。</p>           | <p>一 只今生タル子ノ鳴聲ヲ立テ死スレハ、父兄弟ニモ忌ハナシ。</p>  | <p>一 重服之クヒハナレハ、百日過テ可有。同アイ火ノ事ハ三日之穢レ。輕服ノアイ火ノ事ハ當日斗也。</p>    | <p>一 月水ハ八日、九日ニテ宮ト神殿ヘハ可參也。産屋ト月水ニハクヒハナレナシ。</p>  | <p>一 温病ハ七十五日、瘡病トアカイハラハ三日ノケカレナリ。人ヲテカケウチタル人ト合戦ニアヒタル人ハ三日穢也。</p> | <p>云共、是モ作ラヌニハヲトリ也。</p>             |
| <p>一 流鏑馬の事。一の的のはつれたるハ天</p>        | <p>一 社内ノ木のまるひたる事外ヘまるヘハ天下の御為、内ヘまるヘハ社家の為也。</p>    | <p>一 人を引導したる人の忌七日、同野送の人の忌前に立は三日、後に立は七日のけかれなり。</p> <p>一 御宮造にハ人を引導する事ハなし、但弓のつるをうちまはして其内の土をほりて土葬して次のとし取出て引導する也。</p> | <p>一 只今生たる子の泣聲を立すして死すれハ父も兄弟も忌ハなし。</p> | <p>一 重服のくひはなれなし、百日過てあるへし、同あい火ハ三日のけかれ、輕服のあひ火ハ当日ハかりなり。</p> | <p>一 月水ハ八日なり。九日にて宮神殿ヘ參へし。産屋と月水くひはなれなし。</p>    | <p>一 温病ハ七十五日、きやへい赤腹三日のけかれ、人を手かけてうちたる人合戦にあひたらん人は三日のけかれなり。</p> | <p>作事無子細と云へとも、是も不作にハおとりたりと云へり。</p> |

|                            |  |   |  |
|----------------------------|--|---|--|
| 43                         | 42   | 41  |  |
| <p>一 磯並前宮葛輪之宮三濟山七日可有精進</p> | <p>一 密迹神御精進事、上十日毎日三度垢離、精進屋内之人女合音不可有之。况身障人七度塩垢離<small>コリラカヘン</small>擔、精進屋可參。同神師如是可有。精進是則逆縁之御道場故也。故御精進屋入人、前七日可有精進也。參詣之人可如是成。</p>                                 | <p>一 社内<small>ヘ</small>犬鳥倒物食入<small>ナトヲ</small>燵燈成裸取二捨之一燵燈無忌。</p> | <p>皮社家恠、三的射手恠也。是者惡事高丸御對治之時、一天下之奉為、二國土衆生之為、三以二神通自在方便力一、刹那間、誅二取彼高丸一給時、大地震動、作二雷電一。然間、至二于今代神慮是被レ思二食嘉例一坎覺、是以當社祝殿、向二敵<small>（給フ時ハカ）</small>□□、雨降風吹成當家吉事一者歟。其被上代向大敵時射二占手矢一覺其吉凶給也。</p>                                   |
| <p>一 磯並・前宮・葛輪ノ宮・御射山へハ七</p> | <p>一 御左口神ノ御精進ノ事、上十日ハ一度ノコリ、中十日ハ二度ノコリ、末十日ハ日三二度ノコリ也。精進屋ノ内ノ人ハ女トアヒ事スヘカラス。マシテサワリタル人ハ七度ノシホコリヲカキ、精進屋ヘハ可參。同神主モ如此可有之。則キヤクエンノ御道場ナル故也。カルカユヘニ御精進屋ヘ入人ハ、前二七日ノ精進ヲシテ入也。</p>     | <p>一 社内ヘ犬・鳥ナントタヲレ物ヲクヒテ入タルニハ、サイトウヲハタカニシテ取テ捨レハサイトウニ忌モナシ。</p>        | <p>天下ノ御為、二の的ハ社家之為、三の的ハ射手ノ為也。是ハ惡事也。高丸御退治之時、一ニハ天下之為、二ニハ國土衆生ノ為、三ニハ神通自在之方便力ヲ以テ、カノ高丸ヲ刹那力程ニウチトリ給シ時、大地振動シテライテンヲナシトヲ、今ノヨマテ神慮モ佳例ヲ思食スカト覺テ、當宮ノ祝殿テキハウヘ向セ給時ハ、雨降風吹ハ當家之吉事ナルトカヤ。サレハ上代ニハ宮内ヨリ大テキニ向ハセ給時ハ、ウラテヨイサセテ其吉凶ヲサトル也。</p>      |
| <p>一 磯並・前宮・葛輪ノ宮・御射山へハ七</p> | <p>一 御左口神ノ御精進ノ事。上十日ハ日に一度のこり、中十日ハ二度のこり、末十日ハ日に三度つゝ残り也。精進屋の内の人ハ女とあひ事すへからず。ましてさはりたる人ハ七度のしほこりをかきて精進屋ヘハ可參へし。同神主も如此あるへし。是則逆縁の御道場なる故也。かるかゆへに、御精進屋ヘ入人はまへに七日精進して可入也。</p> |   | <p>下の御為、二の的のはつれたるハ社家の為、三の的ハ射手の為也。是ハあくしのたかまる退治の時、一にハ天下のため、二にハ國土の為、三にハ神通の為、自在の神力を以て彼たかまるをせつなか程にうち取給時、大地もしん動してらいてんをなしゝを、今の世までも神慮も嘉例を思食かとおほえて當宮の祝殿、てきはうに向せ給時、雨ふり風ふけハ吉事成とかや。されハ上代にハ宮内より大てきに向せ給時は占手矢を射させて其吉凶をさとる也。</p> |

也。參詣人可心得也。

一 當社不掛御贄可禁制物共、熊・猿・狼・羊・岩名山鳥也。熊・權現使者故也。猿・得羅漢果之故也。則仏躰者也。山鳥青・黃・赤・白・黑・五色故也。是亦、山神形故也。羆・羊・狼之化現、山神護召物、高山磐石飛行得神通自在故也。岩名及一、一寸得龍形、越龍門瀧、登百丈瀧得自在故也。此外、鳥鹿猪魚何可掛。是則慈悲之殺生、業盡有情之故也。當二々社御頭一人、何為御狩本、仕二贄鷹一可被係二御贄仰。御狩申事、始二從波提國鹿野苑。鷹申始說摩訶陀國。背二此旨二不御贄狩御頭人、可背神慮。

如是服二逆縁慈悲之御贄一輩、如下文云業盡有情雖放不生故宿人天同證佛果、文上所得贄忽可二成仏得道一。我身信施罪即消滅。不可共咎得二不知二此意住二愛別離苦之思設逸邪見之心一、恣貪二鳥鹿魚貝五辛酒飯、朝夕膳誇滋味無二慙愧心一輩。信施罪故殺生海廉二受重罪、可助贄世々生々落海飛レ是事大切故、我身經二因果之報一、生二替鳥鹿魚肉身一、受二其苦一、招二無間之業一。然間逼二側此事一、任二御誓願一所レ受、贄文二報二萬民一設慈悲、恐二天地一、敬レ神、正レ儀、鑒二末世

日精進ニテ可參。

一 當社御贄ニカヲヌ物共、熊・猿・ニク・ユハナ・山鳥也。熊ハ權現垂迹ノ依使者ナルニヤ。猿ハ羅漢果ヲ得仏躰ナル故也。山鳥ハ青・黃・赤・白・黒ノ色ヲ具足シ、山神ノ形ナル故也。ニクハヲオカミノ化現、山神護ヲウノ召物ニテ、高山ノハンシヤクニヲイテ飛行自在ノ通ヲ得ル故也。ユワナハ寸ニ及ヘハ竜ノ形ヲ得、龍門ノ瀧ヲコヘ、百丈ノ瀧ニヲイテモ自在ナル故也。此外ノテウロク・スイキヨハ何モカトルヘシ。是則慈悲ノ御殺生、業盡有情故也。当社ノ御頭ニアタラン人ハ、何モ御狩ヲ本トシテ、御贄鷹ヲモツカイ、御贄ヲカケラルヘシ。御狩ト云ハ波提國鹿野苑ヨリ始レリ。麻河陀國ヨリ始也。此旨ヲ背キテ御贄狩ヲモセサラレ御頭人ハ、神慮ニ可背者也。

如此逆縁之慈悲ノ御贄ヲフクム輩ハ、心中ニカノコウシムウシヤウ、スイハウフシヤウ、コシユクニンチウ、トウセウフツクワトセウスレハ、ウルトコロノ贄ハ忽成仏得道ス。我身ハシンセノ罪即消滅メ其トカヲ得ス。此根ヲ不知シテアイヘツリクノ惡念ニヌカリテ、鳥鹿・氷魚ノ肉身ヲホシキマヽニムサホリ、朝夕ニウセノコキアチワ

日精進にてまいるへし。

一 當社の御贄にかゝらぬ物共、熊・猿・ニク・ゆわな・山鳥也。熊ハ權現垂迹の依夫者なるになり。猿は羅漢果をえ佛体なる故也。山鳥は青・黄・赤・白・黒の色を具足し、山神のかたち成故也。ニクハをほかみの化現、山神護をうの召物にて、高山のかんしやくにおいて飛行自在の通を得てある故也。ゆわな一すニ及ヘハ得龍の形で。龍門の瀧を越、百丈の瀧におひても自在なる故也。此外のちよろく水魚ハなにもかもかゝるへし。是則慈悲の御放生、業深色情のゆへなり。

一 當社の御頭ニあたらん人ハいかにも御狩を本として御贄鷹をもつへし。御贄をかけるるへし。御狩と云ハ波提國鹿野苑より始れり。鷹と云ハ麻河陀國より始也。此旨を背く御贄狩をもせさらん人の御頭ハ可背神慮者也。如此逆縁の慈悲の御贄をふくせんともからハ心中にけひをもつて、業盡有情、雖放不生、故宿人中、同證佛果とせうすれハ得所の贄ハ忽に成佛得道する、我身しせの罪則消滅してとかもなし。此理をしらすして、逢別離苦惡念にぬかりて、鳥鹿水魚にくしんをむさふりて、にうせむ

|   |   |
|---|---|
| <p>45</p>   |   |
| <p>一 七不思議之事<br/>         一 御渡事 一 蛙狩事 一 高野鹿耳 一 御雨<br/> <small>池ニ木葉不<br/>         入事亦藤嶋<br/>         或楠井御幣<br/>         其外池畔也<br/>         或御<br/>         作田</small></p> | <p>思夫之機<sup>一</sup>、宣<sup>二</sup>正実々理<sup>一</sup>、除<sup>二</sup>其衰<sup>一</sup>、患<sup>一</sup>、破<sup>二</sup>魔障<sup>一</sup>、消除天下災、蕪拂、御聖朝安穩天下泰平国土豊饒<sup>一</sup>、被<sup>二</sup>祈禱<sup>一</sup>、申<sup>二</sup>法理達<sup>一</sup>也。五官祝者、思<sup>二</sup>根本變作<sup>一</sup>、東西南北中央之五帝龍王也。亦表、五智如来歟。故御文神字蒙一向也。發心修行菩提涅槃中央也。</p>  |
| <p>七不思議之事<br/>         一 御渡 一 カヘルカリ 一 高野ノ鹿ノミト 一 葛井池ノ木葉 一 御アマヲ</p>   | <p>イニホコリテ邪見ノ心ニ住ス。其身ハシンセノツミノ故ニセツシヤウカイニヲチ重罪ニシツミ、スクウヘキ贄ヲハ世々生々クカイニヲトシ渡スルコトナキカ故ニ、我身ハインクワノコウヲ経テ鳥鹿・水魚ノ身ニ生返テ其クルシミヲウケ、無間ノ業ヲ招ク。然ハ此事ヲヒツソクシテ御誓願ニマカセテウクルトコロノ贄ヲハ、四句偈ヲ以テホウシ、万民ニ慈悲ホトコシ、天地ヲ恐レ、神ヲ敬、儀ヲタメシクシ、末世之凡夫ノ氣ヲカミテ、正実ノ理ヲノヘテ、其スイケンヲノソキ、魔シヤウヲヤフリ、天下ノサイケキヲ消除シ、御テキヲハラヒ、聖朝安穩・天下泰平・国土豊饒ト祈請スルヲ以テ、ホウリタチトハ申也。五官ト云ハ昆本ノヘンヲツラノモノミルニ、東西南北中央ノケウシヨ五帝龍王ヲ表スル也。故ニ御モンノ神ノ字ヲイツカウニカフル也。ホツシムシユキヤウホタノネハム大ネハンコレ也。</p>  |
| <p>※49の記事の直後に記載<br/>         七不思議事<br/>         一 正月一日之蝦蟇狩之事。蝦蟇神成大荒</p>   | <p>のこき味にほこりて、甘露としやけんの心に住して、其身ハ○施の罪の故にせんしやう界にお地、重罪にしつみ、すくふへき贄をは世々生々くわにかいにおとし度する事無か故に、我身ハいんくわの業をかふふりて、鳥鹿水魚のミ仁生返て其くるシミをうけ、無間の業を招に似たり。加之、此理をひんそくして御誓願に任て請所之贄をハ四句けをもつてほうし、万民に慈悲をほとこし、天地をおそれ、神をうやまい、儀をおもくし、末世のほんふの身口をかみみて正實のことハりをのへて其すいけんをのそき、まゑんを破天下のさいけきを消滅して諸々のおんてきをほらい、聖朝安穩、天下泰平、国土豊ねうときせいするをもつて祝達とハ云也。五官と云ハコンホンヘンをつらく願<sup>おもんみる</sup>に、東西南北中黄のけうしよ五形龍王を表する也。又云、御願ト云金こう界五百余尊の形也。たいそう界七百余尊と云、神使殿六人神ノ長ハ母の形也。舎七百余尊おるか故に、御もんの神字を院号に蒙なり。<br/>         ※50の記事へ</p> |

筒粥 狩野鹿生事  
或哀澄観

一

御作田 作毛生付事  
或八栄鈴

以上是也

チ 一 ツヽカイ 狩野ノ鹿  
生スル事

一

御作久田 作久

神、惱乱<sup>ナウ</sup>天下時大明神彼ヲ退治<sup>シ</sup>御座<sup>シ</sup>座<sup>シ</sup>時、四海静謐之間、阪波ト云字ヲ波阪なりと讀<sup>ヨメ</sup>り、口傳多し。

望人ハ尋へし、于今年々災を除玉ふ、謂<sup>エハレ</sup>ニ墓狩是ナリ。

一 寒氣之御渡。忝も御神躰之御通ある跡、御〇ヒハラノ。カンキ申せは疎<sup>ラロソカ</sup>なり。直ニ神躰をおかみ奉る。望人ハ以社参可奉拜也。口傳在之。

一 正月十五日筒粥。葦を切テ束縛之、五穀を入之煮<sup>ニモ</sup>ハ其年之可豊饒ハ悉彼筒中エ入る。不然一粒も不入也。土民等是を心得作也。

一 楠井池御幣・御穀・酒、十二月晦日夜寅刻ニ彼幣穀ヲ奉入レハ遠江いまの浦見付郡猿擲池ニ正旦卯刻ニ彼幣酒穀彼池浮宮人取上拜ス。楠井与猿擲池之間七日路あり、只一時ニ通する也。

一 高野之鹿之耳之折たる事。天竺鹿野苑より御供之鹿也。

一 御作久田。六月晦日ニ苗をうゆれは一夜ニ熟味と成禽獸不服之成御穀。

一 御射山ニ不種麻之おゆる事。此山を号理趣會山、此山不地振、無蛇蝎蚊蛇<sup>シヤカツモンマウ</sup>下生三會之曉説法砌ナリ。一度此地を踏ぬれば不

| 48  | 47  | 46  |  |
|---|---|---|--|
| <p>一 七木之事<br/>一 桜湛之木<small>あわさへにあり</small></p> <p>一 真弓湛之木 真恩暨 一</p> | <p>一 七石之事</p> <p>一 御座石 矢ヶ崎 一 御沓石 社内 一 御<br/>硯石 守屋山 一 墓石 回行 一 小袋石 磯並<br/>一 小玉石 口口五 一 龜<small>浮石トモ云</small>石 千野川 以上<br/>是也</p>  | <p>一 御神寶事</p> <p>一 金御札 一 三組御寶 一 八榮鈴</p> <p>一 神象之形 一 真澄鏡 一 御手洗水</p> <p>一 御鞍 以上是也</p>     |  |
| <p>一 七木之事</p> <p>一 サクラタノイノ木 粟澤ニ有。 一 真弓タ</p>                         | <p>七石之事</p> <p>一 御座石 一 御沓石 一 硯石 一<br/>蛙石 一 小袋石 一 小玉石 一 龜石<br/>已上是ヲ七石ト云也。</p>  | <p>御神寶之事</p> <p>一 コカネノ御フタ 一 三クミノ御寶</p> <p>一 ヤサカノ鈴 一 神サウノカタナ 一<br/>マスミノ鏡 一 御手洗水 一 御鞍</p> |  |
| <p>一 七木之事</p> <p>一 櫻湛之木 一 真弓湛之木 一 峰湛之</p>                           | <p>※50の記事の直後に記載</p> <p>七石之事</p> <p>一 御座石ト申ハ正面之内ニ在リ、件之蝦蟇<br/>神之住所之穴通龍宮城ニ、退治蝦蟇神ヲ、<br/>破穴以石塞其上ニ坐玉シ間、名ヲ石之御座ト<br/>申也。口傳在之。</p> <p>一 御沓石社内ニ在リ、是ハ波ニ浮キ平沙ヲ<br/>走ル御沓ナリ。生類恐テ此石之上ニ不上也。</p> <p>一 硯石水不増不減ナリ、三界之衆之善惡<br/>ヲ被シ<small>シルサル</small>註 硯也。</p> <p>一 甲石社内ニ在リ。闇夜ニ如星光之輝。<small>マタシクカ</small></p> <p>一 小袋石磯並ニ在リ。乾珠是ナリ。</p> <p>一 小玉石海端ニ在リ。滿珠是ナリ。</p> <p>一 龜石千野川ニ在リ。浮石ナリ。七石之<br/>口傳在之。</p> | <p>一 眞澄鏡 不思儀 八榮鈴 不思儀 惣而二<br/>十八不思儀御</p>   | <p>墮惡所、今此山社參人等生類必三會曉說法<br/>之砌ニ可出也。就然今調新衣服社參之儀是<br/>ナリ。惣而四七不思儀在リ、望人ハ可尋。</p> |

| 50   | 49  |   |
|--|---|---|
| <p>一 情惟、当社明神者、遠分ニ異朝雲一近交南塵一給申。其名健部名方明神、去尋二和光之古一居ニ波提国主一、文月末比鹿野苑御狩之時、奉レ襲ニ守屋逆臣一遁ニ其難一、廣大慈悲御 得名給。亦委奉レ訪ニ御本地一者、西方補處之埵浮ニ影於秋津洲之波一、一陰一陽之靈祠也。振威於豊葦原風一、亦敷十種之願網於苦海、弘一乘之法輪於濁世一、越ニ恆順衆生之誓願</p>          | <p>一 七木之事年中行事、神功皇后責隨新羅一有ニ御還御一、筑紫筑前国宇佐宮云ニ杵尾一處、有ニ御誕生一時、八龍王築レ山、引ニ植七本相一、指ニ揚八本幡以、申ニ八幡山一也。有ニ王子御誕生一。其御名申ニ宇佐八幡一也。亦申ニ相尾御門一。申ニ八幡大菩薩一也。有ニ御即位一申ニ應神天王一也。神功皇后下宮顯給也。依レ之七本之相被レ移レ下下宮故、申ニ七本木一、表ニ此相一申也。</p>      | <p>峯湛之木高口 一 檜草湛之木栄沢一 椽木湛之木 一 柳湛之木 一 松木湛之木<br/>以上七木是也</p>  |
| <p>一 情惟、当社明神者、遠分異朝雲近交南浮塵給申。其名健御名方明神、去ハ和光之古ヲタツヌル、波提国ノ主トシテ、文月末比鹿野苑御狩ノ時、奉襲守屋逆臣カ其難ヲノカレ、廣大慈悲御座得名給。又奉訪御本地者、西方補処之薩埵浮ニ影於秋津洲之波一、一陰一陽之靈祠也。振威於豊葦原風、亦敷二十種之願納於苦海一、弘ニ一乘之法輪於濁世一、越ニ恆順衆生之誓願化生一、令レ蒙ニ</p> | <p>七木之事者、年中行事ニハ神宮皇后ノ新羅ヲセメ随テ御帰アリテ、筑紫筑前国宇陀郡スキノヲト云所ニテ、皇子御誕生アリシ時、八龍王山ヲツキ七本ノ杉ヲヒキウヘ、八本ノ幡ヲ指アケシヲ以テ、八幡山トハ申也。皇子誕生有。其名ヲ宇佐八幡ト申也。又相尾御門共申。八幡大菩薩ト申也。御即位有、應神天王トモ申也。神功皇后下宮ト顯給也。依之七本之杵ヲ被移下々宮故ニ、七本木ト申表、此杉申也。</p> | <p>ハイノ木 一 峯タハイノ木 一 ヒクサ<br/>タハイノ木 一 トチノ木タハイノ木 一<br/>柳タハイノ木 一 神殿松木タハイノ木 已上七木トハ是也。此木共ノ本ニテハ皆々神事有。</p> |
| <p>※44の記事の直後に記載<br/>情 面見ハ、当社明神者遠異朝雲分、近南浮之塵口其御名武御名方明神申、去者和光古尋波提國主メ文月末ノ比鹿野苑之御狩守洩之逆臣奉レ制遁ニ其難一廣大慈悲之得レ名ヲ給ヘリ。每ク御本地訪ハ西方補處之薩埵影ヲ秋・津洲之波浮ヘ一陰一陽之靈祠威豊葦原風ニ振ウ。又十種之願網敷ニ苦海ニ一、一乘法輪弘濁世ニ恆順衆生之誓願他</p>        | <p>此七本木ハ神宮后宮新羅ヲ責メ退治シ御歸リアリテ、筑紫筑前國宇佐郡杉尾ト云所ニテ王子御誕生アリシ時、八龍王山ヲ築キ七本之杉ヲ引植、八本之幡ヲさしあけしによつて八幡山ト申也。亦杉尾之御門とも申。御位つかせ給ヘハ大しん天王ト申也。八幡大菩薩とも申也。神宮皇后ハ下宮トあらハれ玉し時、七本之杉を下宮に被移によつて七本木ト申、口傳在之。<br/>※45の記事へ</p>        | <p>木 一 干草湛之木 一 椽木湛木 一 柳湛之木 一 松木湛之木神殿在リ</p>  |

他生<sup>ニ</sup>、令<sup>レ</sup>蒙<sup>二</sup>懺悔滅罪之利益於萬民<sup>一</sup>給<sup>ハ</sup>。訪<sup>レ</sup>二其濫觴<sup>一</sup>、或稱<sup>シ</sup>二他國衆生之靈<sup>一</sup>、亦号<sup>二</sup>我朝根本之神<sup>一</sup>。南方<sup>ニ</sup>幸<sup>ニ</sup>二波斯國<sup>一</sup>、降<sup>二</sup>伏惡龍<sup>一</sup>救<sup>二</sup>萬民<sup>一</sup>。治<sup>二</sup>彼國<sup>一</sup>為<sup>二</sup>二阪波皇帝<sup>一</sup>。東方<sup>ニ</sup>至<sup>二</sup>二金色山<sup>一</sup>、殖<sup>二</sup>善苗<sup>一</sup>成<sup>二</sup>二仏道<sup>一</sup>給<sup>ハ</sup>。其後移<sup>二</sup>吾朝<sup>一</sup>給<sup>ハ</sup>、接州滄海邊垂跡、鎮<sup>二</sup>三韓西戎之逆浪<sup>一</sup>、表<sup>二</sup>西宮<sup>一</sup>。亦濃州高山麓和光、守百王南面之寶祚<sup>一</sup>誓給<sup>ハ</sup>。申<sup>二</sup>南宮<sup>一</sup>也。終<sup>ト</sup>二勝地於信濃諏方郡<sup>一</sup>垂迹給<sup>ハ</sup>。彼所移<sup>二</sup>金剛碧瑠璃之地<sup>一</sup>、顯<sup>二</sup>四智四品之臺<sup>一</sup>、表<sup>二</sup>三段折之地形<sup>一</sup>、上者上品上中下生、中者中品上中下生、下者下品上中下生表<sup>二</sup>九品<sup>一</sup>。上段者石御座多寶金塔真言秘密阿伽柵七千餘卷一切經如法擁護、十羅刹女守護妙典<sup>一</sup>給<sup>ハ</sup>。中段者玉御寶殿般若守護十六善神并出、正明神垂迹給<sup>ハ</sup>代<sup>二</sup>衆生之八苦<sup>一</sup>給<sup>ハ</sup>。盡<sup>二</sup>三時夜三特御苦<sup>一</sup>、從<sup>二</sup>御身<sup>一</sup>出<sup>二</sup>御汗餘<sup>一</sup>、御神殿成<sup>二</sup>二軒端雨落<sup>一</sup>奉<sup>レ</sup>察<sup>シ</sup>。五衰三熱之御苦、感涙難押。下段者山野鳥鹿江河水魚悉以救<sup>二</sup>業<sup>一</sup>盡<sup>二</sup>有情給<sup>一</sup>執行。毎月御神事一處也。故和光垂迹御前立<sup>二</sup>鳥居<sup>一</sup>也。鳥居者<sup>二</sup>姿<sup>一</sup>。象<sup>二</sup>神<sup>一</sup>之信施<sup>一</sup>。人者受<sup>二</sup>神身報<sup>一</sup>間、當<sup>二</sup>字<sup>一</sup>風<sup>一</sup>人消<sup>二</sup>滅惡業煩惱之罪<sup>一</sup>故、神々之御前立鳥居<sup>一</sup>也。此<sup>二</sup>字<sup>一</sup>

懺悔滅罪之利益於萬民<sup>一</sup>給<sup>ハ</sup>。訪<sup>レ</sup>二其濫觴<sup>一</sup>、或構<sup>シ</sup>二他國應生之靈<sup>一</sup>、又ハ号<sup>二</sup>我朝根本之神<sup>一</sup>。南方<sup>ニ</sup>幸<sup>ニ</sup>二波斯國<sup>一</sup>、降<sup>二</sup>伏惡龍救萬民<sup>一</sup>。彼國治<sup>二</sup>為<sup>一</sup>二阪波皇帝<sup>一</sup>。東方<sup>ニ</sup>至<sup>二</sup>二金色山<sup>一</sup>、殖<sup>二</sup>善苗<sup>一</sup>成<sup>二</sup>仏道<sup>一</sup>給<sup>ハ</sup>。其後移<sup>二</sup>吾朝<sup>一</sup>給<sup>ハ</sup>、接州滄海邊垂跡、鎮<sup>二</sup>三韓西戎之逆浪<sup>一</sup>、表<sup>二</sup>西宮<sup>一</sup>。又濃州高山麓和光、守<sup>二</sup>百王南面之寶祚<sup>一</sup>誓玉。申<sup>二</sup>南宮<sup>一</sup>。終<sup>ト</sup>二勝地於信濃諏方郡<sup>一</sup>垂迹給<sup>ハ</sup>。カノ所金剛碧瑠璃之地ヲウツシ、四智心品之臺ヲアラワシ、三段三折之地ヲ表ス。上ハ上品上中下生、中ハ中品上中下生、下ハ下品上中下生ヲヒヤウス。上段ハ石ノ御座多寶金塔真言秘密アカタチ、七千餘卷ノ一切經如法擁護、十羅刹女守護妙典、中段ハ御寶殿ニハハンニヤ守護十六善神再出、正明神垂迹給<sup>ハ</sup>。衆生八苦ニカワリ給<sup>ハ</sup>ヒル三時ノ御苦、御身ヨリ御アセ出御神殿ニアマリ、ノキハノ雨ヲチトナル。五スイニ一ネツノ御苦奉察ニ、カンルイ難押。下段ハ山野鳥鹿・江河水魚、悉以業尽有情ヲスクイ玉フ。毎月御神事ヲ執行処也。故和光垂跡ノ御前ニハ鳥居ヲ立也。鳥井ハ阿字ノスカタナリ。神ノシンセヲ象。人ハ神身報ヲウクル間、阿字ノ風ニアタル人ハ惡業煩惱ノツミヲ消滅スル故ニ、神々ノ御前

□越懺悔滅罪利益萬民令<sup>二</sup>蒙<sup>一</sup>。其濫觴<sup>一</sup>尋<sup>ハ</sup>、或他國應生之靈ト稱シ、又ハ我朝根本之神号、南方波斯國御幸成惡龍降伏シ萬民救治<sup>二</sup>ニ彼國<sup>一</sup>諏方皇帝申セリ。到<sup>二</sup>東方金色<sup>一</sup>ニ善苗ヲ植テ佛道ヲ成給<sup>ハ</sup>。其後我朝ニ移給<sup>ハ</sup>接州蒼<sup>一</sup>頭垂迹ヲ三韓西戎之逆浪諏方<sup>一</sup>西宮顯ル又ハ豊前高山麓ニ光ヲ和テ百王南面護<sup>二</sup>二寶祚<sup>一</sup>ヲ誓給<sup>ハ</sup>ヒシヲ南宮トハ申也。終<sup>ト</sup>二勝地於信濃國諏方郡<sup>一</sup>垂迹ヲ彼所<sup>ニ</sup>金剛碧瑠璃之地<sup>一</sup>ヲ移給<sup>ハ</sup>。或本品ノ臺顯<sup>シ</sup>三壇三折之地形表テ。上ヲハ上品上中下生。中ヲハ中品上中下生。下ヲハ下品上中下生ヲ顯シ。上壇ニハ石ノ御座多法塔真言秘密阿伽柵七千餘卷ノ一切經如法擁護十羅刹女妙典ヲ守護給<sup>ハ</sup>。中壇ニハ玉御寶殿般若十六善神并出<sup>一</sup>止明神跡ヲ垂、衆生八苦ニ給<sup>ハ</sup>夜三時晝三時之御<sup>一</sup>惱<sup>ニ</sup>自<sup>二</sup>御身<sup>一</sup>出<sup>二</sup>御汗御寶殿<sup>一</sup>余<sup>リ</sup>軒端雨降成五衰三熱之御苦奉<sup>レ</sup>察難<sup>シ</sup>ニ感涙難押。下壇ニテハ山野之鳥鹿江河水魚到迄、業盡有<sup>レ</sup>生、救<sup>ハ</sup>給<sup>ハ</sup>。毎月御神事被<sup>レ</sup>取勤所也。故和光垂迹御前被<sup>レ</sup>鳥<sup>ニ</sup>右立也。鳥居申<sup>ハ</sup>阿字姿神御信施蒙<sup>二</sup>人<sup>一</sup>邪身之法受申間阿字之風<sup>ニ</sup>當<sup>二</sup>人<sup>一</sup>惡業煩惱罪消滅スト申。然者諸神御前ニモ鳥居立也。此阿字繪<sup>ニ</sup>モ書姿<sup>一</sup>ヲモ作人ハ此世ニテハ安樂ニテ後世ニハ成佛

|   |   |
|---|---|
| <p>51</p>   | <p>修<sup>カキ</sup>書<sup>ニ</sup>レ<sup>スル</sup>繪<sup>ヲ</sup>、作<sup>ツクル</sup>レ<sup>質</sup>人、現世安穩<sup>ニ</sup>後生<sup>ニ</sup>位成<sup>シ</sup>仏、<br/>         修<sup>スル</sup>二懺悔<sup>ヲ</sup>一人蒙<sup>ムル</sup>二滅罪<sup>ノ</sup>之利益<sup>一</sup>也矣。</p>  |
| <p>一 御柱者普賢文殊觀音弥勒也。又秘密壇上、号四楸、胎金兩部壇上儀式故也。五胎三古獨古有三具足。佛與二衆生<sup>ニ</sup>不二之躰、木火土金水姿也。三古者天地人形也。獨古</p> | <p>ニハ鳥居ヲ立也。此阿字カキ給、スカタヲツクル人ト、現世安穩後生成仏シ、サンケヲ修スル人滅罪之利益ヲ蒙也矣。</p>  |
| <p>一 御柱ハフケム・文殊・クワンヤン・ミロク也。又ヒミツダン上ニハ、号四楸、胎金兩部壇上儀式故也。五胎三古獨古三ノ具足アリ。仏衆生ト不二ノ躰、木火土金水ノ</p>             | <p>セリ云リ。懺悔ヲ仕<sup>ス</sup>ハ滅罪之蒙<sup>ニ</sup>利益<sup>一</sup>也。御柱申ハ行テ致<sup>シ</sup>ニ口壇<sup>シタメヲコナ</sup>認<sup>ル</sup>行<sup>ニ</sup>、五古、三古濁古トテ三ノ具足有、五古ハ佛ト衆生ト木火土金水ノ姿。三古天ト地ト人ノ姿也。濁古ハ禦<sup>フセク</sup>ニ惡魔ヲ一人ヲ安穩成<sup>ス</sup>姿之故、四之御柱ハ濁古姿也。行<sup>ニ</sup>ハ端指<sup>タン</sup>拍掌<sup>ハク</sup>トテ致也。端云ハ指ヲ放<sup>ス</sup>是ヲ仕<sup>ス</sup>ハ生死事知也。拍掌シテハ滿<sup>ニ</sup>一切之願<sup>一</sup>ト傳<sup>ツタヘ</sup>タレハ此故ニ平<sup>タイラケ</sup>祝<sup>ク</sup>ト申トハ云也。平ケクトハ安穩泰平成<sup>ト</sup>祈、手打事ハ願<sup>ネカク</sup>ヲ滿<sup>ミテ</sup>給云心也。故ニ御玉會者大明神之御判形姿成<sup>ル</sup>故三刀<sup>ニ</sup>十二<sup>ニ</sup>因縁<sup>ニ</sup>切折<sup>目</sup>ハ六度<sup>ノ</sup>之法文也。夫大権<sup>ケン</sup>應<sup>ノ</sup>跡<sup>キ</sup>ハ機<sup>ニ</sup>隨<sup>シタカ</sup>示<sup>カ</sup>現、依<sup>ニ</sup>冥衆<sup>ノ</sup>之隱顯<sup>ニ</sup>時<sup>ニ</sup>不定也。然<sup>ニ</sup>今陰陽<sup>ニ</sup>柱<sup>ノ</sup>之神ト顯<sup>ニ</sup>内證<sup>ニ</sup>月明<sup>メ</sup>理智<sup>智</sup>同<sup>ニ</sup>四德<sup>ニ</sup>源照<sup>外</sup>用之風<sup>和</sup>メ人法<sup>共</sup>待<sup>ニ</sup>三會<sup>ノ</sup>之曉<sup>一</sup>ヲ、今世<sup>ヲ</sup>モ助<sup>未</sup>來<sup>ヲ</sup>モ救<sup>給</sup>ヘシ。故<sup>ニ</sup>社頭<sup>ニ</sup>蹄<sup>馳</sup>玉殿<sup>御</sup>幣<sup>捧</sup>テハ周郎<sup>ウコカシ</sup>動<sup>レ</sup>簪<sup>カシ</sup>燕<sup>姫</sup>カ袖<sup>翻</sup>ス、思<sup>ヘ</sup>ハ除<sup>チヨサイ</sup>災<sup>延</sup>口<sup>ノ</sup>之方法<sup>又</sup>ハ當<sup>來</sup>作<sup>佛</sup>不<sup>有</sup>結<sup>縁</sup>ニ哉。去<sup>ハ</sup>貴<sup>賤</sup>首<sup>ヲ</sup>遠<sup>近</sup>廻<sup>ス</sup>踵<sup>ヲ</sup>一<sup>天</sup>之<sup>下</sup>四<sup>海</sup>之上<sup>恩</sup>波<sup>ニ</sup>浴<sup>仕</sup>ヌ無<sup>人</sup>者。</p> |
| <p>※47の記事へ</p>  | <p>※47の記事へ</p>  |

|   |   |
|---|---|
| <p>52</p>   | <p>者惡魔降伏之形也。諸人安穩姿也。秘密行上、有彈指拍掌之事。為二彈指一除二惡魔一。知二生死理一也。柏葦滿二一切願一也。故成二彈指拍掌一、祈二國家安穩太平一意也。拍レ手事滿レ願云意也。亦御玉人會者僅ヲ大明神御判形也。切二三刀十二因縁一也。折目者六度法門也。夫大権應迹隨レ機示現、真衆隱顯依レ時不定也。然今顯二陰陽二柱神一、内證月明理智同照レニ四徳源一、外用風和吹、人法具待二三會曉一助二現世一救二未來一給故、馳二仕頭蹄、捧二玉殿御幣一、動二周郎簪一、翻二燕姫袖一。竊思二除留与樂方法一。非二当来作仏之結縁一乎。去者貴賤替レ首廻二遠近踵一、一天下四海上浴二恩波、無非神慮矣。</p>   |
| <p>嘉禎四年 戊十二月一日<br/>副祝神在判<br/>擬祝神在判<br/>權祝神在判<br/>祢宜神在判<br/>大祝信濃權守在判</p> | <p>スカタ也。三古ハ天地人形也。独古ハアクマガウフクノ形也。諸人安穩ノスカタ也。ヒミツ行上ニハタンシハクシヤウノ事アリ。タンシスレハアクマヲノソク。生死ノ理ヲシル也。ハクシヤウスレハ一切願ヲミツル故ニ、タンシハクシヤウヲナシ、国家安穩ヲ折ル。大平ノ意也。手ヲウツ哀願ヲミテント云意也。又御玉會ハ併大明神ノ御判形也。三刀ニキリ十二インエンヲ表ス。折目ハ六度法門也。夫大権ノ應迹ハ隨機示現シ、真衆ノ隱顯ハ依時不定也。然今顯二陰陽二柱ノ神一、内證月明ニメ理智同照ニ四徳源一、外用風和吹、人法具三會ノ曉ヲ現世ヲタスケ来世ヲスクヒ給故ニ、社頭ニ蹄ヲハセ、玉殿ニサレク御幣、動周郎方簪、翻二燕姫袖一。思除与樂方法也。非当来作仏之結縁乎。貴賤替レ首廻二遠近踵一、一天下四海ノ上浴二恩波一、無レ非二神慮一矣。</p> |

|                   |  |   |
|-------------------|--|---|
| 54                |  | 53  |
|                   |  | <p>右一卷依上社宮大工原家古寫本、不違一字書寫畢。<br/>于時大正七年二月上旬、於諏訪徵古館閑室。<br/>雪人子（花押）</p> |
| <p>諏波六齋日精進之日記</p> | <p>上十三所名帳<br/> <small>一番</small> 所大明神阿彌陀女神 <small>二番</small> 前宮大明神如意輪觀音<br/> <small>三番</small> 磯並大明神千手觀音 <small>四番</small> 大歲大明神地藏菩薩 <small>五番</small> 荒<br/> <small>六番</small> 玉大明神辨才天 <small>六ヤ</small> 千野河大明神文殊 <small>八番</small> 若御子<br/> <small>七番</small> 大明神勝軍 <small>七</small> 拍手大明神虛空藏 <small>九番</small> 楠井大明神<br/> <small>十番</small> 藥師女神 <small>十</small> 溝上大明神聖觀音 <small>十一番</small> 瀨大明神彌勒<br/> <small>十二番</small> 玉尾大明神愛染女神 <small>十三番</small> 穗謨大明神釋迦如來<br/> 中十三所名帳<br/> <small>一番</small> 藤嶋大明神不動 <small>二番</small> 内御玉殿大日 <small>三番</small> 鷄冠大明神<br/> <small>四番</small> 藥師 <small>四又</small> 醉藏大明神大日 <small>五番</small> 習 <small>五ヤケ</small> 燒大明神不動<br/> <small>六番</small> 御座石大日 <small>七</small> 御飯殿 <small>七ミカシキトノ</small> 毘沙門 <small>八番</small> 相本 <small>八</small> 如意輪 <small>九</small> 若<br/> <small>十番</small> 宮神宮寺 阿弥陀 <small>十</small> 大四御庵十二面 <small>十一番</small> 山御庵虛空<br/> <small>十二番</small> 藏 <small>十二</small> 御作久田寶性佛 <small>十三番</small> 闕 <small>十三アキ</small> 庵 弁才天<br/> 下十三所名帳<br/> <small>一番</small> 八劔明神 弁才天 <small>二番</small> 小坂鎮守觀音 <small>三番</small> 鷺宮明神<br/> <small>四番</small> 荻宮明神 <small>四</small> 文殊 <small>五番</small> 達屋明神 <small>五</small> 不動香鼻 <small>六番</small> 酒室大<br/> <small>七番</small> 明神 彌勒 <small>七</small> 下馬明神 <small>七</small> 馬頭 <small>八番</small> 御室明神 <small>八</small> 荒神 巳口 <small>九番</small> 御<br/> <small>十番</small> 賀摩明神 弁才天 <small>十</small> 磯並山神 日月神 <small>十一番</small> 武居會美<br/> <small>十二番</small> 酒蛭子 <small>十二</small> 神殿中部屋 弁才天 <small>十三番</small> 長廊大明神 <small>十三</small> 馬頭多寶佛</p> |   |

行水卅五杓或廿杓 若十三杓

禮拜文曰十三礼 從神道出弘法大師御作

南無飯命頂礼大日本正一位諏方南宮法性大明神上下二宮十三所王子御左口神慚愧懺悔六根罪障

六濟日 同六道 等并御左口神御本地六觀音

十六日 地獄道之主、第一御左口神、本地千手觀音。

此ノ日勤スレハ精進ヲ當ル一万一千五百廿日ニ、依テ此ノ功德地獄道ヲ遁ル

廿三日 餓鬼道ノ主、第二ノ御左口神、本地正觀音。

此ノ日修レハ精進ヲ當ル五千七百六十日、此依テ功力遁餓鬼道。

晦日 畜生道主、第三御左口神、本地馬頭觀音。

此ノ日行スレハ精進當ル二千八百八十日、依テ此功力ニ遁ル畜生道ヲ。

一日 修羅道ノ主、第四ノ御左口神、本地十一面觀音。

此ノ日勤スレハ精進ヲ當ル一千四百四十日依テ、此功力遁ル修羅道ヲ。

八日 人道ノ主、第五御左口神、本地准胝觀音。

|   |  |
|---|--|
| 55  |  |
|   |  |
| <p>神前ニテ七度ヲ申事<br/>         在家ハ先六親眷属ト自身現世安穩七難即滅<br/>         ト祈ル心也。六親トハ伯・叔・兄・弟・<br/>         兄・孫ヲ云也。七難トハワウ難トテ無理ナ<br/>         ル難ニアウ。獄難トテロウシヤセラレメシ<br/>         コメラルトナンニアウ、水難、火難、風難、<br/>         兵難、弓矢ノ事飢渴是也。</p> | <p>此ノ日修レハ精進當ル七百廿日、依テ此功德<br/>         翻シテ人間ヲ生ス忉利天ニ。<br/>         十五日 天道ノ主、第六ノ御左口神、本地<br/>         如意輪觀音。<br/>         此ノ日行スレハ精進ヲ當ル三百六十日ニ、此ノ<br/>         依テ功力退キ天道ヲ生ス極樂ニ。<br/>         右此毎ニ六濟日持戒精進ニ而致シ讀經看經ヲ<br/>         修行スレハ、終日ニ遁レ彼ノ六道ノ衢一、滅<br/>         シ無量劫ノ罪ヲ一、定メ未來永劫ノ順次ヲ、<br/>         必ス生ス安養極樂ニ。斯ノ日先ツ可シ唱フ。<br/>         南無法性大明神<small>或千遍 或万遍 若千反 若百反</small>、名号<small>或千遍 或万遍 若千反 若百反</small>、六觀音宝号<br/>         世安穩ニメ福貴自在也。亦來世ニハ御本地ノ<br/>         六觀音各立ニメ六道ノ衢ニ<small>ヲシエヤリ</small> 教遣極樂界ニ一<br/>         暢也。<br/>         鹿とりをころせることハおもひ子を<br/>         おやのうつにハをとらさりけり<br/>         神長重書 神滿實</p> |



執筆者紹介

二本松 泰子

長野県立大学グローバルマネジメント学部 教授

グローバルマネジメント 第8号

---

印刷 2023年3月14日

発行 2023年3月14日

編集代表者 穴山 悌三

発行所 長野県立大学

〒380-0803 長野県長野市三輪8丁目49番7号

TEL 026-217-2241 (代表)

FAX 026-235-0026

E-mail daigaku@u-nagano.ac.jp

印刷所 カシヨ株式会社

〒381-0037 長野県長野市西和田1-27-9

---



# The Global Management of Nagano

2023.3  
VOL.8

---

## [Document]

The full text of the Yajima family document Bukkiryou  
(No.2073) deposited at the Suwa City Museum

..... NIHONMATSU Yasuko 1

---

